南魚沼市/大和地域周遊MAP

✕ 古戦場

※注意:このイラストマップは縮尺など正確な地図ではございません。お車でお越しの際は裏表紙に掲載の地図をご利用ください。

✕ 御館の乱と浦佐城(浦澤城)

天正6年(1579)御館の乱が起こると、上杉景勝は雲上五の要衝にある浦佐城(浦澤城)の守備を清水藤左衛門に命じました。南魚沼は上杉景勝や直江兼続の出身地であったので、景勝も兼続も同様に関係するこの地をたのみとし、政景・景勝の直江時代である上田衆(五十騎衆)の清水一族も決死の覚悟で浦澤城に立て籠もりました。籠城するときは夢窓さの基礎の上に土を盛って火矢を防ぎ、虎口や町中に出丸をつくって敵の見通しを妨げ、横矢や鉄砲の狭間をつくりました。櫓窓の窓所には地上6尺ほど、一間に5本ほどの柱をたてて網をつくり、梁木をつなぐ筋ぶちを組び、見張りの井楼を組たてました。敵・太鼓・法螺貝が用意され、それを合図に兵糧を運び入れて、武士も農民も、その家族も残らず城中へ詰めました。小田原勢は人数が大勢であったので、入れ替わり、立ち替わり攻撃を繰り返しましたが、城所清水藤左衛門が指揮するこの城兵は城に城門を開いて打ってでることもあり、最後まで持ちこたえた言われています。

✕ 戊辰の役と普光寺

慶応4年(1868)4月、戊辰戦争の戦火が魚沼の地にも及び、榎町小出町(魚沼市)において「小出島の戦い」が勃発。大砲、小銃の音と喊声は大地を揺るがし、雷雨のように鳴きました。会津藩兵は激しい白兵戦を展開しましたが、次第に形勢不利となり、ついには総崩れとなって広浦坂峠六十曲峠へと撤退しました。戊辰戦争では浦佐普光寺は官軍の先鋒軍本営が置かれたほか、病院にもなって、薩摩藩や長州藩の死傷者は普光寺へ収容され手厚く介護されました。しかし薩摩藩士8名、長州藩士8名がこくなられ、寺の西山に墓地を造り埋葬、今も「招魂社」として祀っています。普光寺上段の間には、薩摩藩・長州藩の家紋をつけた位牌、戦死された16名の俗名を記した位牌や錦兵庫小隊百名元桑間次郎・報国隊大本所茂氏の遺品である陣笠が保存されています。また慶応4年7月、小千谷民政局から、浦佐の人達が献身的に負傷者の看病をしたと言う事で賞賛を受けています。

「浦佐毘沙門堂と兼続」を訪ねて…

観光情報

西山三十三番観音巡り
33ヶ所の観音様と美味しいものを巡る全長7kmの遍歩道。約2時間半の道程です。

八海山尊神社
山岳信仰の聖地。大祭口登拝(4/29)、大祭口登拝(10/29)には大変大祭開催。

八色の森公園・池田記念美術館
越後三山を望む広大な園内には美術館もあり、散策コースとして人気があります。

龍谷寺
インドグプタ様式の建物。堂内には観音一百観音像が安置されています。

裸押合い大祭
「サンヨ、サンヨ」で有名な3月3日開催の大祭は国の無形民俗文化財に指定。

浦佐やな
スノコの隙間を手づかみする捕獲術は迫力満点。魚釣り名物鮎料理を味わいます。

アグリコア越後ワイナリー
「垣根式」ワイン用葡萄園と雄大な山々を眺めて越後ワインとお食事を楽しめます。